

県立美術館の開館に向けた美術作品の購入候補等について  
(美術資料収集評価委員会の結果等)

令和5年8月21日  
美術館整備局美術館整備課

7月23日に開催した令和5年度第1回鳥取県美術資料収集評価委員会において、美術作品の購入と屋外設置作品の選定について、それぞれ以下のように高い評価と具体的な助言を頂きましたので報告します。  
また、補正予算の提案に向け、準備を進めていくこととしています。

1 購入候補作品(購入費として2億円程度を想定) ※別紙1参照

No	分野	収集方針による位置付けと候補作家 / →は、購入候補作品と委員会でのコメント
1	近世絵画	1 ①鳥取県の美術：鳥取県に関係した近世以前の美術作品 <b>根本幽峨(ねもと・ゆうが)</b> 鳥取藩最後の藩絵師で、生誕200年を迎える今年度に博物館で企画展を開催予定 <b>《下山御尊像》(しゅっさんごそんぞう)</b> →鳥取藩ゆかりの作品として質や状態、価格に問題なし。是非収集すべき。
2		2 ①国内外の優れた美術：江戸絵画の多様性を示す優れた作品(琳派) <b>鈴木其一(すずき・きいつ)</b> 琳派を代表する画家の一人、琳派は鳥取藩の藩絵師にも影響を与えた <b>《草花図屏風》(そうかずびょうぶ)</b> →作家の特徴がよく示された優品であり価格も問題ない。是非収集すべき。
3		2 ①国内外の優れた美術：江戸絵画の多様性を示す優れた作品(「奇想の画家」の優品) <b>伊藤若冲(いとう・じゃくちゅう)</b> 米国の収集家ジョー・プライス氏に見いだされ、花鳥画などで世界的に人気が高い <b>《花鳥魚図押絵貼屏風》(かちょうぎよずおしえはりびょうぶ)</b> →若冲の墨絵としては十年に一度、市場に出るかといった傑出した作品。 →提示価格はやや高い印象だが、近年の若冲人気や八曲それぞれ独立した内容と考えれば、希少性も鑑みて問題はないと思う。ミュージアムグッズなどへの展開も容易と考える。 →ミュージアム・ピースとしての風格があり、入手できるときに入手しておくべきである。 →近世絵画の研究者にとっては大変魅力的な作品であるが、一般の方は若冲といえば緻密で極彩色の印象があるため、若冲屈指の優品であることを丁寧に説明する必要がある。
4	彫刻	1 ⑤鳥取県の美術：郷土作家とつながりをもつ国内外の作家の優れた美術作品 <b>八木一夫(やぎ・かずお)</b> 本県出身の辻晋堂と陶彫作家として盟友、京都市立美術大学にて相互に影響を与えた <b>《亀》(かめ) 《墨の本》(すみのほん)</b> →いずれも貴重な作例であり提示額も妥当。 辻晋堂の盟友という関係もあり、是非収集すべきである。
5	現代美術	1 ③鳥取県の美術：鳥取県にゆかりのある現代作家の美術作品 <b>坂本和也(さかもと・かずや)</b> 米子市出身の若手油彩画家、2017年に米子市美術館で個展開催 <b>《Landscape Gardening》 / 《Resilience》</b> →地元の若手作家の作品収集で大変結構、価格も妥当であり、是非収集すべきと考える。
6		2 ③国内外の優れた美術：戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品(優れた写真表現) <b>やなぎみわ</b> 若い女性が想像した50年後の理想の自分を特殊メイク等を使い写真表現。 <b>《My Grandmothers AI》</b> →これまで収集した同じシリーズの作品の中でも最大級の作品であり、提示額も妥当。 収集に厚みをもたせる意味でも収集にふさわしい。
7		2 ③国内外の優れた美術：戦後の美術・文化の流れを示す優れた作品(優れた写真表現) <b>森村泰昌(もりむら・やすまさ)</b> 作家自身が名画や映画の登場人物に扮し、時代や人種、性別を超えた様々な他者を表現 <b>《Brothers (A Late Autumn Prayer)》</b> <b>《Self-portrait / after Brigitte Bardot 2》</b> →いずれもそれぞれのシリーズの代表作であり、特に「美術史シリーズ」はほとんど美術館などに収蔵され、今回の機会を逃すと入手しにくい。是非とも収集すべきである。 →価格については評価参考人によってばらつきがある。《Brothers (A Late Autumn Prayer)》は東京国立近代美術館に今回の提示額で納入されているが、今回は同一業者から二点の購入であるから、一度値引き交渉をしたうえで、最終的な価格を決定してはどうか。作品自体は必ず収集すべきである。

- 2 屋外に設置する美術作品の制作委託候補作家（制作委託費としては3億円程度を想定） ※別紙2参照
- ・屋外に設置する作品の考え方、設置する場所、候補と考えられる作家と想定される作品について、委員のご理解を頂いた。
  - ・また、屋外に設置しない作家についてはコミッションワークとして屋内に設置し、通常の収集の手法による作品設置も視野に入れていることを説明した。
  - ・今後は、作家等による現地確認（現在進行中）を経て予算作業を進め、引き続き収集評価委員会に作品の方向性を諮りながら、屋外設置を進めていくことを確認した。

《設置場所》

設置場所① エントリープラザ (1点設置予定)	最寄りのバス停から美術館に入る正面に位置する広場であり、植栽樹木の並びのなかで人々が行き交い近づくことができる場所に、美術館のコンセプトを象徴する作品を1点検討する。
設置場所② 彫刻の庭 (1点設置予定)	県民ギャラリーの東側窓に面し、正面入り口など3方向から眺めることができる芝生の庭の中で、違う角度の離れた場所からも楽しめる作品を1点検討する。
設置場所③ 創作の森 他 (4点設置予定)	建物の西側に設ける街並みから切り離された空間の中に置く来館者がくつろぎ、作品に触れつつ対話できるような素材感を活かした作品や参加型作品の他、えんがわやテラスに設置する小型作品を含め、4点検討する。

《候補作家》

No.	候補作家名 (在住地・生年)	想定する設置作品のイメージ / →は、委員会でのコメント
1	青木野枝 (おおきのえ) (日本 1958～)	円や王冠状の形態を用いた、開かれた内部をもつ独特の彫刻。女性の中堅彫刻家として国内外で多くの野外彫刻の実績がある。
2	李禹煥 (リー・ウーファン) (日本 1936～)	様々な角度から作品を鑑賞できる「彫刻の庭」の特性を生かし、自然石や金属、ガラスなどによって、禅寺の庭を連想させるような空間を構成する作品。 →リー・ウーファンの作品は、現地を確認してから構想するタイプの作品であるように感じる。作品の設置は急ぐ必要はなく、美術館が出来てから第二期工事のような考えで整備していく方法もある。(後日、作家サイドから現時点で構想を練ることは十分可能との連絡あり)
3	リクリット・ ティーラワニット (タイ 1961～)	テーブルや椅子、舞台などといった機能を有するオブジェで構成され、来場者がその機能を通じて作品や他者と関わり合う。 アートと人との交流を生み出す開かれた鳥取県立美術館を象徴し、更にアートに近づきたくなる館内への誘引効果も高い作品。 →リクリットの作品は「彫刻」であると同時に「場」であり、来場者との関係が重要である。ただ「場」を作って終わりとしてしまうのでは、リクリットらしさが弱まると感じる。 →作品の設置場所については、実は建築が完了するまではっきりしない場合がある。想定していた導線以外に来場者によって自然に導線が出来てしまうからだ。来場者との関係を想定したリクリットの作品はこの点で難しさがあると感じる。
4	スーパーフレックス ※3人のアーティストで構成 (デンマーク)	ブランコや鉄棒、ジャングルジムのように遊ぶことのできる機能を備えた、様々な世代が楽しめる参加型の立体作品。
5	中ハシクシゲ (なかはしかつしげ) (日本・鳥取県出身 1955～)	小動物をモチーフに、視覚に頼らず触覚のみで制作されたブロンズ彫刻とベンチによって構成される作品。来場者は彫刻に触れながら腰掛けたり、作品の置かれた場所全体を楽しむ。
6	鈴木昭男 (すずきあきお) (日本 1941～)	環境の中を飛び交う音に耳を澄ますための場所を、壁状の物体で構成される空間として制作。音を通じた豊かな体験を来場者に促す作品。

その他のコメント

→屋外作品は維持費に予想以上の経費がかかる場合があるので、その点にも注意しつつ、整備を進める必要がある。